■ 博物館の四季 ■

阿波踊りを始め、 健島では季節ごとに様々な伝統行事が 行われてきました。 そうした伝統行事を 新たなイベントとして再現し、 子どもから大人まで、

情様に楽しみ、参加いただいております。 ここでは四季折々に辿り広げられる 徳島城博物館のイベントの一部を紹介します。



●須賀400年の栄枯をバチ に託して語り継ぐ、阿波の 男女心意気。豪快な太鼓と 単番な罐子の跳演。(花見太鼓)



棋と踊りと三味線が無く何波 の夏。その様々な姿と「よしこ の」の名調子、尺八と三味線 の夏切に満ちた精霊おどり等々。



代々の藩主がこよなく愛した 茶の湯。 菊薫る旧徳島城妻 御殿庭園をパックに、花茶会。 (製菓茶会)



武勇でならした縁須賀家。 主が家臣による新年の模拶を 要ける前に行われた射初式。 古式に法り再現。(日賈流射初め演武)

■ 体験学習事業 ■

日本の伝統文化や徳島の歴史・美術について理解を深めていただくため 様々な体験学習を実施しています。甲冑や女房装束(十二単)などの時代 衣装を身に着けたり、投扇興や離双六など昔の遊びを楽しんでみたり…。 博物館のおもしろさをみなさんも体感してみてください。

■博物館講座■

学芸員による「美術講座」「古文書講座」では、日頃の調査研究活動の成果 を反映した講座を開設しています。他にも各界の専門講師を招いた歴史 博物館ならではの興味深い講座を実施しております。

■特別講演会 ■

企画展、特別展の開催に合わせ、展覧会のテーマをより深く理解してい ただくため、特勢館では、第一線で活躍されている一流の講師を県内外か ら招いて各種講演会を開催しています。

■ ボランティア友の会 ■

ボランティア友の会のメンバーが博物館と表演曖昧闘を案内します。

●事業等の問合せ先/徳島市立徳島城博物館 TEL (088) 656-2525



国雷定名博「旧徳島城表釧殿庭園

<開館時間>

午前9時30分~午後5時(入場時間は午後4時30分まで)

<休館日>

月曜日(祝日の場合は開館) 祝日の翌日(日曜・祝日の場合は開館) 年末年始(12月28日~1月4日)

<常設展示観覧料>

区分	個 人	团体(20人以上)
- 102	300円	240円
高校生 大学生	200円	160円

※特別所の閲覧料は別に定めます。

薬中学生以下は無料です。

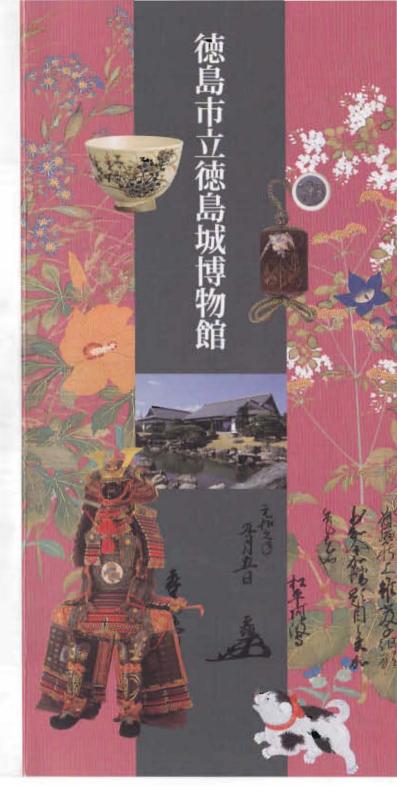
※海助領人前者は、別館島域表面収配調をご覧になれます。



<交通>

- ●徳島自動車道 徳島 ICから車で15分
- ●JR 徳島駅から徒歩約10分
- ●徳島市営バス「徳島公園鷲の門前」下車徒歩約5分
- ●駐車場 TEL (088)655-9037 バスの駐車については、予約が必要です。

〒770-0851 徳島市徳島町城内1番地の8(徳島中央公園内) TEL(088)656-2525 FAX(088)656-2466 http://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/index.shtml



当館は徳島藩と蜂須賀家に関する歴史資料の収集保存、展示公開、調査 研究、教育普及を通して、徳島市の成り立ちや文化に関する知識と理解 を深め、新たな市民文化の創造と郷上への愛着をたかめることを目指し ています。



[華入部]

正面に見える「革包丸龍文二枚胴意具足 (複製)」は、初代藩主峰須賀至鎮が、初陣 である関ヶ原の戦いに雇用したと伝えら れる甲冑です。わずか18騎ながら東軍に **参戦したことの功績により、蜂須賀家は** 阿波一国の領有を安堵されることになり ました。まさに徳島藩の幕開けを象徴する 摩冑といえます。





【大名のくらしと文化】

綸子地能楽模様打掛

蜂須賈家旧蔵の大名道具や、近世阿波の美術工芸品を紹介し ます。藩主所用の甲冑や、徳鳥藩が抱えた絵師や蒔絵師の作 品、阿波の焼物や刀剣などの鑑賞を通して、江戸時代に徳島 の地で育まれた生活文化や美意識にふれてみましょう。



城下町のくらし

坂の構え

【雑手前のくらい】

【姫の構え】

阿波水車の活躍

德岛市指定文化财 家祖蜂道賀正勝画像 大名のくらしと文化

ラウンジ

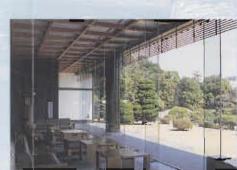
祖人科、新党の准備



蜂須賀家政の阿波入国から廃藩置県までの286年間を、し徳島 藩のなりたち ②中期の政治 ③徳島の幕末・維新、の3部 構成で紹介 グラフィックによる解説や古文書などの資料を たどりながら、徳島の近世史が理解できるようになっています。



徳島藩の水軍について「乱世と阿波水軍 2 泰平と阿波水軍 1阿波水軍の船の3部構成で紹介します。全国で現存する最古 の和船「徳島藩御召鯨船 千山丸」(国指定重要文化財)を中心に、



城山を借屋にした林山様式の本庭園は、阿波の青石を帯社かつ 繊細に配置した枯山水と築山池泉で構成され。奥深い幽玄の世 界を隠遊しながら鑑賞できます。作庭者は関ヶ原の戦いで西軍 に参加したのち、藩祖 蜂須賀家政に庇護を受けた武将茶人・ 上田宗簡といわれています。のちに宗簡は広島藩主送野家に招 かれ家宅となりました。



HIIII

木戸をくぐると徳島城下の町並みが現れます。瓦豊の大店や

檜皮葺きの長屋、高札場など、江戸時代の徳島城下の雰囲気を

醸し出す展示室内。ここで紹介される歴史資料の数々が、近世

展示室中央には徳島城御殿の精巧な復元模型が展示されていま す。折れ曲がり塀や能舞台、複雑に配置された各部屋、城内を 行き交う人々の姿などを通して、明治8年(1875)に解体された 蜂須賀家の居城・徳島城のイメージを思い描いてみてください

徳島の城下町へ皆様をタイムスリップしてご案内します。

渡辺広仰筆 竹鶏図

【阿波水軍の活躍】 阿波水軍が担ってきた役割や活躍のようすを紹介しています。 德島県指定文化財 桐橋水車図昇組 約野養信筆 西王母·瀧図

